

RI会長年度を振り返って1 世界の国々で見たこと、感じたこと

2012 - 13年度国際ロータリー会長 田中 作次

私たちがロータリーで見つけた幸せを できるだけ多くの人に

ロータリークラブ(RC)のある地域社会は、クラブのない地域よりも必ず良い場所になると私は信じています。ロータリーがある地域社会の人々の人生は、より豊かなものになります。私が八潮RCに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩となりました。人々とのつながり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和を、それまでよりもさらに深く感じるようになりました。私は、この気持ちを多くの人々に伝えていきたいと考えておりますが、その方法の一つが、ロータリーへの入会をお誘いすることだと思います。

会員候補者に伝えなければならないのは、ロータリーが素晴らしい団体であるということ、そしてロータリーへの入会によって、その人の人生がより幸せになるということです。私たち全員が、ロータリーの会員であることの素晴らしさを知っており、ロータリーを愛しています。私たちがロータリーで見つけた幸せを、できるだけ多くの人々に知っていただきたいと思います。

さて、新世代奉仕は、ロータリーで最も新しい五つ目の奉仕部門です。長期的な影響を生み、今の人々だけで

なく、後世のために何かを残そうというロータリーの思いが、新世代奉仕に反映されています。新世代奉仕は、青少年とその家族、そして未来の世代のための、すべての奉仕を含んでいます。

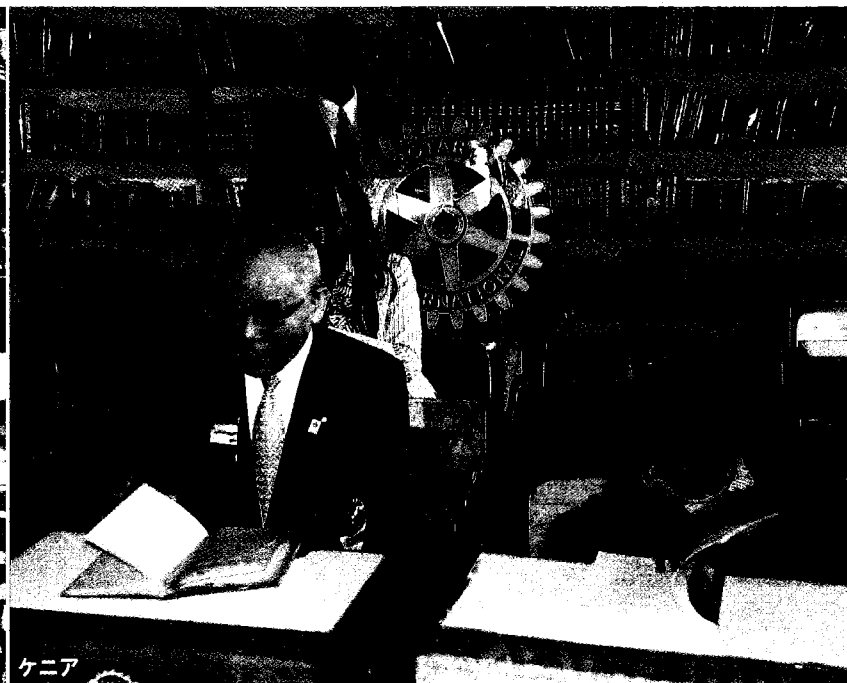
識字率向上、職業訓練、母親のための保健プログラム、子どもたちの栄養強化といった活動から、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年交換などのプログラムに至るまで、ロータリーでは若者たちがベストの状態での人生の第一歩を踏み出せるよう支援しています。

一例として、現在ナイジェリアでは、18人に1人の女性が、出産によって命を落としていると言われます。ロータリーの会員は、母親の保健のための取り組みを通じて、このような悲惨な状況をなくし、母親のいない子が一人でも少なくなるよう活動しています。さらにロータリーは、20億人の子どもをポリオから守ってきました。かつて世界を苦しめていたこの悲惨な病気は、撲滅の寸前にあります。ロータリアンの長年の活動によって、世界からポリオがなくなる日は遠くないはずです。

また、それぞれの地元地域で、子どもたちに読み書きを教え、貧しい家庭の子どもに本を贈るといった活動もしています。読書を通じて、子どもたちは夢を膨らませます。それらの本は、新しい世界への扉を開くものです。



アメリカ・オクラホマ



ケニア



ケニア

「世界でよいことをしよう」と言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。活動の大小は問題ではありません。大切なのは、自分たちの手で、より良い世界を実現しようと努力することです。また、私たちロータリーがそのような努力をしていることを、人々に知っていただくことです。

ロータリーによって救われた子どもたち

これまで、私は世界各地の訪問を通して、深く印象に残った数々のプロジェクトがあります。ケニアでは、親がエイズで亡くなったために、孤児となった子どもたちのための施設を見学しました。このような子どもたちはあまりにも多いため、施設に入ることのできない子どもたちがたくさんいます。

こうした状況を認識した地元のロータリアンは、援助の手を差し伸べ、他の国のロータリアンと協力して、施設と学校を設けました。このプロジェクトによって、子どもたちは路上の生活から救われた上、ベッドと食事に加えて、介護や教育を受け、生活技能を習得し、家庭の雰囲気と希望のある未来が与えられたのです。このようなプロジェクトを地元の地域が単独で支援することは困難です。しかしロータリーを通じて、いくつかの地域社会が協力すれば、子どもたちを助けることができます。

イスラエルでは、最貧国の子どもたちに現代的な心臓

医療を提供しているロータリーのプロジェクトを知りました。このプロジェクトでは、小児心臓外科医が、アフリカ、ヨーロッパ、中東に赴き現地の医師に手術や集中治療の研修を行っています。これまで18年間に、1万7,000人を超える子どもたちがテルアビブにやってきて、心臓救命手術を受けました。

他の多くのロータリープロジェクト同様、このプロジェクトは、当初の計画よりも多くのことを成し遂げてきました。当初は心臓疾患を抱える子どもたちに現代医療を提供し、長く健康的な人生を送ってもらうことを目標としていましたが、目標への過程で、平和への構築にも役立ってきました。

手術を受けにやってくる子どもたちの半数は、パレスチナ自治区や、ヨルダン、イラクから来るアラブ人の子どもたちです。彼らはイスラエルを嫌い、恐れるよう教えられ育てられましたが、このプロジェクトを通じて家族も含め、それまで見ることもなかった現実を、自分の目で見る機会に恵まれました。

政治のないところで、ロータリーを通じて両サイドの人たちが結びついたのです。そこにある思いやりの心、コミュニケーション、相互理解は、それ以外の方法では実現しなかったでしょう。これこそ、私たち異なる背景を持っている人たちにとっては、平和を構築するための最善の方法ではないでしょうか。このような行動を通じ

て、奉仕の心を多くの人々に持っていただき、幸せと希望に満ちた世界を作り、究極的には、世界平和という目標を実現できると私は思います。

ロータリーは長年、私の人生の中心となってきました。ロータリーのおかげで、世界を違った視点から見るができるようになりました。ロータリーは、地域社会や国際社会に影響を与えられるだけでなく、私がそうであったように、一人の人間の人生に影響を与えます。ロータリーの真の素晴らしさは、そこにあるのではないのでしょうか。国連憲章の前文に、次のような文言があります。「寛容を実行し、且つ、善良な隣人として互に平和に生活」すること。これは、ロータリーの中核にある目標と一致しているように思います。この言葉を、私たちはぜひとも行動で実践していかなければなりません。

ロータリーへの入会理由はそれぞれ異なるかもしれませんが、誰かの人生に喜びをもたらすことによって、自分自身が幸せになれるということは、多くのロータリアンにとって、ロータリアンであり続ける理由となっているのではないのでしょうか。これこそが、ロータリーの精神であり、平和な世界を築くために必要な精神であると思います。

人はみな自分だけで生きていくことができない

私は国際ロータリー（R I）会長になって以来、新しい体験をたくさんさせていただきました。初めてアフリカそして南アメリカの国々を訪れたのをはじめ、インド、モンゴル、フィリピン、ネパール、ヨーロッパ、アメリカの各都市など、世界各地を訪問しました。訪れる先々で、貴重な体験をさせていただきました。

アメリカ・メイン州では、ロブスターを食べる時には背広ではいけないということで、現地のロータリアンがテーマ入りの特製Tシャツを作ってくださいました。ナイロビでは、3歳の女の子の「名誉おじいちゃん」になりました。アムステルダムでは、証券取引所の開始の鐘を鳴らす榮譽にあずかりました。そしてバチカン宮殿では家内とともにローマ法王との面会が許されました。

また、壊滅的な打撃をもたらしたハリケーン「サンディ」の直後にニューヨークの国連本部を訪れ、モンゴルでは遊牧民のテントの中に入りました。どこに伺っても、現地の方々から温かい歓迎を受け、自宅でもてなしを頂戴したり、友人のように接していただいたことに、感動しました。また、このロータリーのピンを身に着けられることの素晴らしさを、あらためて実感いたしました。どこへ行っても、誰に会っても、ロータリーのピンを着けている人を見れば、その人がどういう人なのかが

わかります。

どこに住んでいようと、何語を話そうと、どんな服を着ていようと、ロータリーのピンを着けている人なら、信頼することができます。同じ価値観を持ち、腹を割って話し合い、友情を分かち合うことができます。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民族間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学んでいます。人を思いやることを学び、自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人は皆同じであると理解できます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。他の人の長所と短所、両方を尊重することを理解できます。そして、どのような人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。

自分のためだけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕活動を通じて、平和をもっと現実近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていくことができないということを教えてくれます。人との関わりのない人生は、むなしく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きること、この世界における自分の役割がはっきりと見えてきます。このように人の生き方を教えてくれるロータリーに、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。世界中に大小数あるNGOの中で、ロータリーほど私たちに生きる力と幸せを与えてくれる組織は、他にないと思っております。ありがとうございました。